

かわちラボ 2023年度事業報告								
タイトル	駄菓子屋 作りませんか？（第1回）	かわちラボ研修～学び合いの場～（全10回）	放課後フリースペースのプレオープンイベント	駄菓子屋 作りませんか？（第2回）	放課後フリースペース開放の試験運用	駄菓子屋 作りませんか？（第3回）	開所式	駄菓子屋 作りませんか？（第4回）
概要	【駄菓子屋について】かわちラボ内に駄菓子屋を運営することで、地域の子どもたちにとって親しみやすい場所をめざす。また、子どもたちの主体的な参加の機会とするため、子どもたちが店主として運営していく。 【店主ミーティングについて】運営方法や店のコンセプトなどを考えるミーティング	オープンスペース（フリー学童）およびフリースクール事業において、子どもと接する際に必要な知識や心構えを学ぶためのスタッフ向け研修会 ※講師は、公認心理師・臨床発達心理士・保育士・幼稚園教諭2種の資格を有するスタッフ	地域の子供たちに広くかわちラボを知ってもらうためのイベントを開催	子ども達が店主となり駄菓子屋をつくるためのミーティング	放課後フリースペース開放の試験運用	子ども達が店主となり駄菓子屋をつくるためのミーティング	かわちラボ開所にあたってのセレモニー	子ども達が店主となり駄菓子屋をつくるためのミーティング
日時	2024年1月20日(土)10時～12時	【第1回】2024年2月9日(金)、【第2回】2月14日(水)、【第3回】2月21日(水)、【第4回】2月29日(木)、【第5回】3月6日(水)、【第6回】3月13日(水)、各回2時間、第7～10回は4月以降に実施	2024年2月23日(金)10時～16時	2024年2月25日(日)10時～12時	2024年2月26日(月)～3月31日の祝日を除く(月)(水)(金)・16時～18時	2024年3月17日(日)13時～15時半	2024年3月25日(月)13-15時	2024年3月30日(日)13時～16時
場所	オンキッチン（河内長野市役所別館）	かわちラボ等	かわちラボ	かわちラボ	かわちラボ	かわちラボ	かわちラボ	駄菓子問屋（岸和田市）、かわちラボ
参加者	他市の小学生と幼児（5名）、河内長野市の中学生（1名）、スタッフ（4名）※見守り=保護者（2名）	講師、スタッフ（4名）、地域の福祉事業所からの参加希望者※ ※経験年数や年齢の違う参加者が交じり合うことでより幅広く深い知見が得られるため	地域の子供たち	駄菓子屋に興味のある小中学生（きょうだいで幼児）7名、大学生ボランティア1名、スクールソーシャルワーカー、スタッフ	地域の子供たち	駄菓子屋に興味のある幼小中学生（6名）、スタッフ、保護者、スクールソーシャルワーカー	河内長野市長、市議会議員、府議会議員、行政関係部署、地域各代表者等	駄菓子屋に興味のある幼小中学生（6名）、スタッフ
実施内容	交流、かわちラボの説明、駄菓子屋のイメージ作り（作りたい駄菓子屋の絵を描く）、発表	・下記研修計画参照 ・一方的な講義ではなく、話し合い、深め合うグループワークやロールプレイを多く取り入れる ・スタッフそれぞれの気づきを共有し、みんなで学び合うことを大切に	かわちラボ周辺で開催されていた「第8回南河内スマイルフェスタ」の開催に合わせ、かわちラボを知ってもらうために子供向けイベントを開催した。子どもたちとスタッフがカードゲームなど通して触れ合った。	①駄菓子買い物、お店の観察 ②駄菓子屋に必要なもの洗い出し ③駄菓子屋の名前決め ④ダンボール棚の制作	事前登録不要で小～高校生が自由に過ごせるフリースペースを開放。カードゲームや文房具を用意し、安心して子どもたちが過ごせる環境を整備した。	お金の講座、看板作り	代表挨拶、来賓挨拶、くす玉セレモニー、交流会	お菓子の購入、陳列、値札つけ
自己評価	和やかな雰囲気の中、子どもたちが作りたい駄菓子屋の絵を個性豊かに描き、自発的に発表し、それぞれの個性を認め合っていたことが良かった。子供たちおよび保護者に対して「かわちラボ」がめざす姿を伝えることができた。	1週間ごとに継続したテーマで研修を行なったため、より深く学ぶことができた。	未就学児から高校生まで、約50名の子どもたちにかわちラボを知ってもらうことができた。	駄菓子屋の名前は、それぞれが一生懸命考えて理由も発表してくれ、個性が発揮されていた。棚制作は、あまり時間がとれなかったが、熱中して制作する姿が多かった。	プレオープンイベントをきっかけに継続して来てくれる子どもたちも居り、少しずつ認知度が上がってきているように感じた。平均利用者数は7名（うち小学生は5名、2/23イベント時の参加者を含む）。	みんなで意見を出し合って店名を決めることができ、子どもたちがチームとしてまとまってきた。また、自由な発想で独創的な看板ができたことにより開店に向けての準備も進んだ。	行政関係者などに子ども第三の居場所事業について知っていただくことができた。また、yahooニュース記事の反響もあり、地域の皆さんに広く知っていただく機会となった。	実際に問屋へ出向き、予算内で商品を購入するという経験を通して、いよいよ自分たちの店が実現するのだという期待感を子どもたちが持てたことが良かった。
記録写真								